

山形県科学技術奨励賞について

1 目的

科学技術に関して優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰し、研究意欲の向上を図るとともに、将来の研究者の確保に資することを目的とする。審査は、外部有識者 6 名による山形県科学技術奨励賞審査委員会において行う。

2 表彰の対象

次の各号に該当する者を対象とする。但し一の年度につき原則として表彰者は 3 名以内。

- (1) 本県内において科学技術の研究開発に従事しているもしくは従事したことがある平成 25 年 4 月 1 日現在において 40 歳未満の者
- (2) 次のいずれかに該当し、県内産業の振興及び県民生活の向上に資する研究成果をあげた者
 - イ 技術開発に関し、優れた研究成果をあげた者
 - ロ 新しい現象、有用物質の発見、有用品種の育成等を行った者
 - ハ 新しい理論解析、実験手段、測定方法等を創業した者
 - ニ 有用データの収集、解析、評価を行い、優れた結果を得た者
- (3) 禁錮以上の刑に処せられたことのない者

3 平成25年度の受賞者

受 賞 者	研 究 概 要
山形県立米沢女子短期大学 健康栄養学科 准教授 加藤 守匡	運動による認知症予防法の開発と、胃電図法と脳波を用いてストレス反応が心身に与える影響の評価手法を確立した。またそれに関連した県内産品（仙太郎下駄等）の機能性評価、県内産食品（ヒメウコギ、米粉等）の医学的評価を行うなど、県民生活の向上や県内産業への貢献が高く評価できる。
株式会社機能性ペプチド研究所 研究員 中村 友美	完全合成-卵子成熟用培地および完全合成-胚培養培地の開発・製品化に寄与し、ブタの体外受精卵生産用培養キットが商品化されたこと、また実際にキットを利用した子豚の出産に成功したことなど、付加価値の高いオンリーワン技術を開発したことが高く評価できる。
山形大学大学院理工学研究科 有機デバイス工学専攻 助教 笹部 久宏	有機 EL のガラス基板からの光取出効率を従来の 20% から 1.5 倍の 30% へ高めることを可能としたこと、また超低電圧での発光を可能とする次世代型超低電圧有機 EL 素子の開発に成功したことは、山形県の産業振興に資する研究であり高く評価できる。また将来の発展が期待できる。
山形県工業技術センター 超精密技術部 専門研究員 鈴木 庸久	カーボンナノチューブを活用した小径軸付砥石の長寿命化技術や超音波援用複合めつき技術を開発したこと、化学反応砥粒含有 CNT 被覆ダイヤモンド砥粒を開発したことなどが評価できる。また研究成果をもとに、超薄型砥石等の製品化に向けた共同研究を県内企業と進めるなど、県内産業の発展に貢献していることが高く評価できる。

(敬称略)